

## 学級会のススメ その2

### ～子ども同士が考えを出し合い分かり合う「支援」の関係を結ぶ～

学級活動（1）（話し合い活動）で、子ども同士の「支援」の関係を育むための教師の働き掛けを紹介します。今回は、「問題発見・確認」の場面です。

### ステップ1 「問題の発見・確認」の場面

#### ① 子どもに自分たちの生活から問題を見付けるための視点を示す

はじめは、以下のような「問題を見付けるための視点」を教師が提示します。

- ・ みんなでしてみたいこと
- ・ 学級生活をもっとよくするためにしたいこと
- ・ みんなにお願いしたいことやみんなで解決したいこと など

諸問題を発見する力を育むには教師の適切な指導が不可欠！



ここに書いたことを議題箱でみんなに提案したらどうだろう。

そんなことがあるんだね。みんなて話し合ってみるといいかもね。

教師の言葉掛け

今の話題は係だけでなく、学級会に提案したらどうかな。

#### ② 子どものつばやきなどから議題になりそうなものを取り上げ、意識付けて提案を促す

待っていても議題は生まれません。次のように仕掛け、布石を打ち、根回しをします。

- ・ いつでも子ども自らの気付きが取り上げられるように議題箱（議題カード）を設置します。  
\* 時には議題カードを配付して書かせても構いません。
- ・ 学級日誌や個人の日記などから子どもの気付きや願いを拾い上げて提案を促します。
- ・ 休み時間、放課後などの子ども同士の会話を聞いて、その時の話題を提案するように促します。
- ・ 係や実行委員会の話し合いの時間を定期的に確保し、その話し合いから提案できるようにします。

#### ③ 教師と提案者とで相談したり、計画委員会で検討したりして議題を決める

教師が以下のような望ましい議題の条件を示して、「今やるべきこと」を子どもと決めます。

- ・ 多くの子どもが早急な解決を望んでいる議題
- ・ 全員が協力しなければならない議題
- ・ 創意工夫の余地がある議題
- ・ 学級や学校生活をよりよいものにする議題

個人情報やプライバシーに関わる問題、相手を傷付けるような結果が予想される問題、学級指導の内容は取り上げない！

教育課程の変更、施設・設備の利用、金銭の徴収、健康・安全に関わる問題は、議題にしない！ 教師が決める！

#### ④ 話し合いでの合意形成のよりどころとなる提案理由を明確にする

教師は、提案者の思いを大切にしながら、「何のために活動をするのか」「何のために話し合うのか」が明確となるように指導・支援します。

提案理由には、次のような内容を入れます。

- ・現状の問題点〈今、こうなっている〉
- ・考えられる解決の方法〈こうすることで〉
- ・解決後のイメージ〈こうしたい、こうなりたい〉

提案理由で  
子どもたちの意識を高めます。  
みんなの問題であることを示します。

提案理由を  
掲示して内容の周知を図ります。  
必要に応じて、図や表や具体物など  
を使って伝えます。

#### ⑤ 朝の会や帰りの会などで、提案者に提案理由を分かりやすく語らせる

学級会の中でも「提案理由の発表」はありますが、多くの時間が取れず、話し合いの見通しをもつための確認にすぎません。そこで、学級に議題を伝えると同時に提案者がしっかりと学級に向け、提案理由を説明できる時間を確保する必要があります。その発表の内容や方法は、教師がしっかりと指導・支援します。

#### ⑥ 教師と計画委員会や運営委員会(司会団)とで話し合いの柱を決める

教師が目指す学級の姿に迫ることができ、学級の課題が解決される(解決に向かう)ことができるように話し合いの柱(話し合う具体的な内容)を決めます。例えば、…

議 題 1年間をしめくくる思い出集会を成功させよう！

話し合いの柱 ①内容は何をするか？

②思い出を振り返ることができるもので何をするか？

③楽しい思い出をつくるために、スポーツ大会とゲーム大会のどちらを行うか？

話し合いの柱をどれにするかで  
話し合いの内容が変わります。

議題は同じでも、話し合いの柱によって話し合いの流れや検討する内容が異なります。

①では、子どもがそれぞれにやりたいことの企画をたくさん出すことができます。その中から目的に照らし合わせて、いくつか絞ったり優先順位を付けたりする話し合いが展開されるでしょう。

②では、目的の「思い出を振り返ることができるか」が話し合いの中心になります。目的が明確ですので、どの方法(活動)がより目的に迫れるかで、それぞれの子どもが考えを出し合い、異なる考えを理解した上で検討する話し合いとなるでしょう。

③では、事前のアンケートなどを基に、計画委員会や実行委員会が活動内容を明確にしています。2つの活動の違いやそれぞれの活動に取り組むことの意味を考えると、学級の実態や学級で大切にしなければならないことを理由にして、一つに決めていく話し合いが展開されるでしょう。

〈引用・参考書籍〉

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

「みんなで、よりよい学級学校生活をつくる特別活動」(小学校編) / 文溪堂 / 2019 / P127

「学級・学校文化を創る特別活動」(中学校編) / 東京書籍 / 2016 / P127

